

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 一般 - 32

学校名・団体名	富山市立福沢小学校
HPアドレス	http://swa.toyama-city-ed.jp/weblog/index.php?id=toyama053
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	学校・地域に誇りをもつ児童の育成
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>本校は豊かな自然に恵まれた農山村地帯にあり、地域住民の学校教育に対する理解と関心は高く、学校行事等にはとても協力的である。平成12年には校区の山間で恐竜の化石が見付かり「恐竜の町」として有名であった。本校を含む旧大山町の4つの小学校には、各小学校の児童が制作した実物大の「アロサウルス」の模型が今も飾ってある。さらに本校には、「アンキロサウルス」の足型の大きな模型も壁いっぱいに掲示されている。発見された当時の本校の校長が作詞・作曲した「かいじゅうのバラード」という歌も残っている。しかし、平成17年度に大山町が富山市と合併したこともあり、恐竜をアピールする場が限られてきている。</p> <p>本校の児童は素直で勤労をいとわず、学年を越えて互いに協力し合いながら穏やかに学校生活を送っている。しかし、近年、児童数が激減し、同学年の児童からだけでは「多様な考え」に出合うことが難しい現状がある。そこで、「全校による活動」の中に自分の考えを伝え合う場を様々な設け、児童が少しでも多様な価値に触れることができるようにしてきた。さらに、平成26年度からは、本校と同規模で複式学級をもつ富山市立小見小学校との交流を計画的に実施し、他校の同世代の児童との価値交流が促されるよう工夫している。</p> <p>今回の助成を受け、これまで実施してきた小見小学校との交流に加え、アロサウルスのように何か形に残る物を「全校による活動」で制作する活動を行うことで、「学校・地域を誇りに思う児童」を育てたいと考えている。</p>	

<活動・研究報告>

1 「わたしたちのふくさわきょうりゅう」(7月～2月)

① 内容

総合的な学習の時間や生活科を中心に、校区探検を取り入れたり、図書室にある郷土に関する資料や本を調べたりして、地域についてそれぞれ学年に応じた課題意識をもち、学習を進めた。子供たちは、校区の様子や歴史についての知識を蓄えたり、学習発表会等で他学年の発表を見て新たな発見をしたりした。

高学年は、ミニ集会で、総合的な学習の時間で調べた小佐波地区で発見された恐竜の化石について発表し、「全校に2階から階段部分にある半透明のポリカーボネートの壁に、自分たちが思い描く恐竜を描き、恐竜の化石が発掘されたこの地区や学校をもっと好きになろう」と呼びかけた。

子供たちは、「グラスデコ」という画材を使い、自分が思い描く恐竜を一人一人が描いた。

購入した図鑑を広げ、図鑑どおりに描こうとしたり、「ふくさわきょうりゅう」を自分で想像し、スキーをしたり他の恐竜と遊んでいる様子を表現したりした。

② 成果

子供たちはこの活動を心から楽しんだ。作品を全学年が掲示した後、友達の描いた恐竜を鑑賞し、本校の取り組みの1つである「いいこと見つけ」カードにそのよさを書く子供もいた。

当初の計画での画材は、「マスキングカラー」という塗料を使用する予定であったが、諸事情により「グラスデコ」に変更した。しかし、「グラスデコ」も明るい発色で、描いた後絵の具が乾くときれいに剥がすことができる上に、それを再び貼ることもできるため、やり直しが可能であり、子供たちが安心して取り組むことができる画材であった。

この取り組みは、自分たちが描いた絵で校舎を明るく楽しくする喜びを味わわせ、自分たちの学校や地域に誇りと愛着をもつことができたとともに、子供たちの情操を育むにはとても優れていた。

今回の取り組みをきっかけに、来年度は、本校の特色の1つである「パステル画」でも、恐竜をモチーフにしてパステル画を描く予定である。また、「富山未来プロジェクト」の支援を受け、恐竜の発掘現場に出かけ、化石が出た辺りの様子を観察したり、実際に化石掘りを体験したりする予定である。



【グラスデコで作品を制作】



【作品を掲示1】



【作品を掲示2】

2 「大好き！小見っ子・福沢っ子」(6～2月)

① 内容

26年度から継続している富山市立小見小学校との交流活動は、28年度は8回実施した。

低・中・高学年別の授業や合同給食、能楽の鑑賞会、合唱指導、音楽鑑賞会、低・中・高学年別の社会科校外学習、クロスカントリースキーなど、年間を通して、計画的に交流活動を行った。今回の助成を受け、6年生のみの社会科校外学習を実施し、卒業記念の制作体験を行った。

② 成果

今年度は、能楽鑑賞や合唱指導など、初めての活動を取り入れた。このような活動を通して、多様な価値観に触れると共に、自分たちの学校や地域を見つめ直すことができた。子供たちの気軽な会話や、感想の話し合いからは両校の仲が一層深まったことが伺える。さらに、他校との交流を通して、自分たちの学校のよさも再認識できたようである。

さらに、今年度は6年生のみの校外学習での交流が実施できた。本校も小見小学校の児童も旧大山町内にある上滝中学校に進学する子供が多い。交流活動を続けているので、中学校進学時の「中1ギャップ」の解消に役立っており、保護者もそのことに安心感をもち、学校への信頼を寄せている。今回の助成のおかげで、子供も保護者も一層安心感を深めたと感じている。



【6年生のみの校外学習】